ニューヨーク補習授業校だより

架け橋

令和７年（2025 年）３月 14 日　　第 41 号　　校長　小島　昇

日本語を話す仲間と、日本語で学ぶ土曜日



ニューヨーク補習授業校の令和６年（2025 年）度が、明日 15 日の修了式、16 日の卒業式で終わります。月曜日から金曜日までは地域の学校に通い、加えて土曜日には補習校に通い続けた子どもたちは、本当によくがんばりました。保護者の皆様には、毎回の送迎、ボランティア、家庭学習のサポート等で大変お世話になりました。一年間、補習校に勤務して、保護者の皆様の協力がなければ補習校の運営は成り立たないと強く実感しました。また、保護者の皆様の協力により補習校の教育内容が充実することも理解しました。皆様からの多大なるご支援に、心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

日本人学校に勤務した経験から、補習校のことを少しは知っていると考えていましたが、一年かけてようやく自分の中で理解が少し進んだと思っています。その中でも、特に子どもたちや保護者の皆様の補習校への期待は多様であることの認識は、実際に補習校で働いてみなければ分からないことでした。補習校には幼児部から高等部まで幅広い年齢層の子どもたちが通っています。そのこと一つをとっても、学校に何を期待するかは異なって当然です。前回の補習校だよりでもふれましたが、学年にかかわらず日本語能力の差はあり、どこまでの日本語能力を求めるのかも一人一人違って当たり前です。そもそも日本語が母語の子どもに日本語能力という表現を使うのは不適切であり、そのような子どもには国語力と言うべきかもしれません。近い将来、日本に帰る予定なのか、当面はこちらでの生活が続き、現時点では日本に帰る予定は未定なのかという違いもあります。現地校で過ごす時間の方が圧倒的に長く、日本語での教科学習でどこまで習得させるのかという視点もあります。いろいろな要素が複雑に関係しており、補習校への期待は多様と言わざるを得ません。

多様な期待にどのように応えていくかの答えは簡単には見つからないと思いますが、答え探しを 2025 ニューヨーク補習授業校チームで続けていくつもりです。日本の学校、全日制の日本人学校も含め、子どもたちの成長を支えるために学校・教師と保護者・地域の協働が求められていますが、特に補習校では保護者や関係者の皆さんが協働してくださることで「日本語を話す仲間と、日本語で学ぶ土曜日」を充実させていくことができると感じています。改めまして、この一年の皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、４月からもよろしくお願いいたします。

「e ライブラリ」をご活用ください！春休み中もご利用いただけます。詳しくは、補習校だより第 38 号をご覧ください。本校ホームページで補習校だよりのバックナンバーをご覧いただけます。